

《キーワード》 歯周組織、歯周病、歯周病原菌、免疫応答、リスクファクター、歯周治療

《担当者名》 古市 保志 長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀

【概要】

歯周病が口腔内における感染症であることが明らかにされてから50年が経過している。その間に歯周病学は著しい発展を遂げ、歯周病の病因・病態について解明が進み、また、効果的な歯周治療法が確立されつつあると言えよう。しかしながら、程度の差こそあれ未だ日本人の70%が歯周病に罹患していることから、今後更なる病因の解明とより効果的な治療法の開発が望まれている。

この授業の目標は、歯周病学における基礎研究・臨床研究の実践に必要な知識と手技を身に付けることである。具体的には、組織学的、病理学的、細菌学的、免疫学的、分子生物学的な分析手法を理解することで歯周病の病因・病態の解明のための研究への応用をめざし、臨床研究の手法を理解することによって効果的な歯周治療法の確立に関する研究への応用をめざす。

【学習目標】

1. 歯周病の疫学を理解するために必要な臨床研究の手法を理解し実践できる。
2. 歯周病の病因解明に必要とされる細菌学的、免疫学的な分析法を理解し応用できる。
3. 歯周病の病態解明に必要とされる病理組織学的、分子生物学的な分析法を理解し応用できる。
4. 既存の歯周治療の効果判定に必要な臨床研究の手法を理解し応用できる。
5. 新規歯周治療法の開発に必要な in vitro 研究による分析法を理解し応用できる。
6. 新規歯周治療法の開発に必要な in vivo 研究（動物実験）の手法を理解し応用できる。
7. 新規歯周治療法の効果判定に必要な臨床研究の手法を理解し応用できる。

【学習内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学習課題 | 担当者 |
|---|------------------------------|---|---------------------------------|
| 1 | 講義 | 1) 歯周病の疫学、病因、病態、治療法 2) 各種 in vitro 研究の実際と用いられる分析方法 3) 各種 in vivo 研究（動物実験）の実際と用いられる分析方法 4) 学会発表及び論文作成 | 古市 保志 長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀 |
| 2 | セミナー | 1) 症例検討会の開催 2) 基礎・臨床研究論文妙読会の開催 | 古市 保志 長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀 |
| 3 | ブタの下顎を使った歯周外科手術及び歯周組織再生療法の実習 | | 古市 保志 長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀 |

【評価方法】

出席状況、提出物

【備考】

教科書 : 授業中に指示する。

参考書 : 授業中に指示する。

【学習の準備】

- 1) 自己の研究課題について国内外の文献を検索し、文献検討すること。
- 2) 自己の研究課題に関して基盤となる理論や方法論について学修すること。